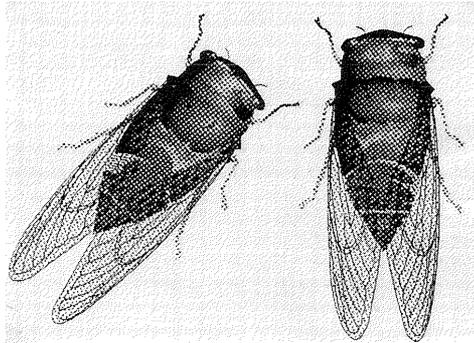


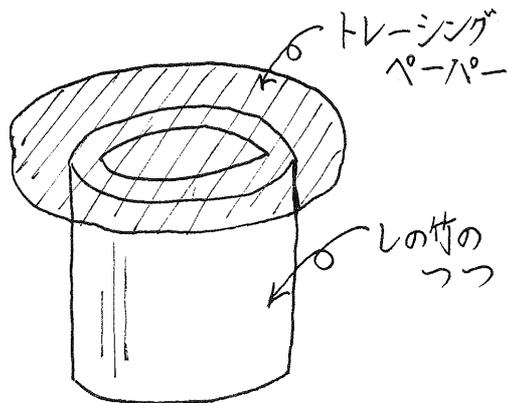
稲わら電話のせみを作ろう



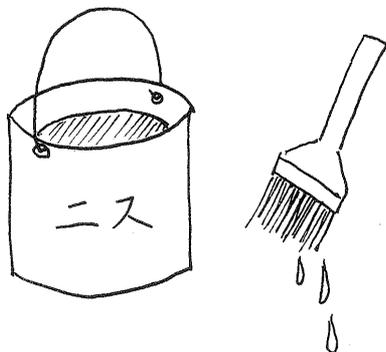
糸電話は、ぴんと張った糸の両側に紙コップをつけると、一方で話したことが糸を伝わってもう一方の紙コップで聞くことができるものです。この糸電話の原理を使った昔のおもちゃを作ってみましょう。

1 「せみ」を作る

(1) しの竹の筒に、紙をはる。



(4) しの竹の筒にはった紙にニスをする。

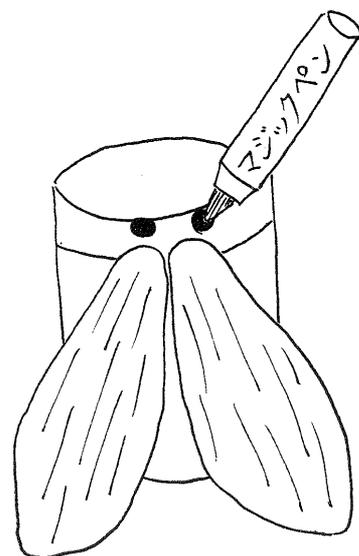


必要な物

- しの竹 (柄の部分、20~50cmくらいのもので片側はふしを残して切ったもの)
- しの竹 (せみの本体、直径2.5~3.0cm、長さ3.0cm)
- 釣り糸 (2号くらい、長さ30~50cmくらい)
- トレーシングペーパー (薄く丈夫な紙)
- 画用紙
- マツヤニ粉末
- ニス
- 楊子またはマッチ棒
- ロウソク
- マッチ
- ・カッター、はさみ、のり、セロハンテープ、両面テープ、マジックペン

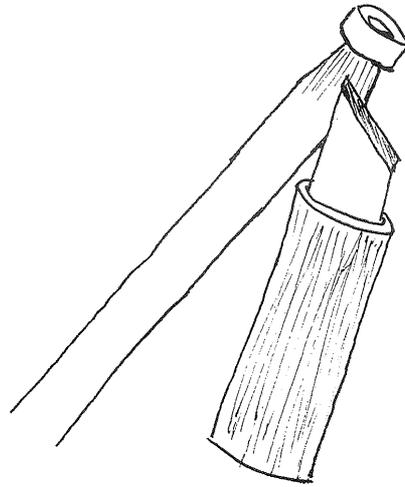
(2) 画用紙でせみの羽を作り、図のようにつける。

(3) マジックペンなどで、目をつけたり、色をぬったりして、「せみ」らしくする。



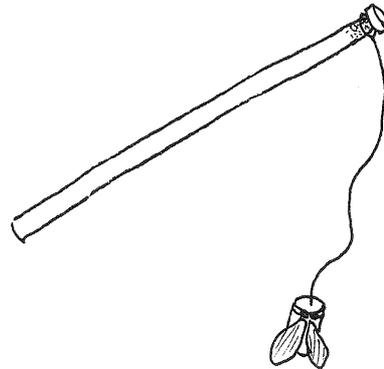
2 柄の作成と組み立て

- (1) しの竹の棒のふしを残すように、カッターナイフなどで少しけずりこむ。(右図)
- (2) けずったところにのりをうすくぬり、マツヤニ粉末をつけて、ロウソクの火であぶり、焼き付ける。2、3回マツヤニ粉末をつけて、繰り返す。



- (3) 1で作った「せみ」の紙をはってニスをぬった部分をさらに強くするために、セロテープを小さく切って中心にはり、糸を通す穴を針であける。次に、糸の端にマッチ棒や楊子を小さく切ったものを結びつけ、穴に糸を通す。

- (4) 柄の部分のしの竹に、ふしの部分から外れないように余裕をもたせて、糸を結びつける。



「ジージーぜみ」の完成です

遊んでみよう

- *まわりに気をつけて、クルクル回してみましよう。みんなでいっせいにやると、せみの大合唱です。
- *糸やはりつける紙の種類、つけるマツヤニのぐあいで音が変わってきます。